



さいたま新都心に一番近い学校

下落合小だより

学校目標 よく考える子 思いやりのある子 明るく元気な子

平成29年11月号

平成29年11月1日

さいたま市立下落合小学校

電話 852-2280

FAX 852-0188

イノベーションという言葉

校長 稲垣克行



6年生修学旅行 ホテルの方のお話

10月の6年生の修学旅行は、寒波の到来前日の帰校、時間走大会は、長雨の中のたった1日の晴れの日実施。今の言葉でいえば、「もっている」学年のようです。活動態度も立派でした。ホテルの方に褒めていただいたのは感激でした。

さて、「イノベーション」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。「イノベーション」の意味は、「新しい価値を見出し、社会を変革すること」と考えてよいと思います。人工知能(AI)の発展に伴い、未来を生きるための力と考えてもよいよ

うです。例えば、携帯電話、iPS細胞の発明発見、消せるボールペンの発明などです。電話は、電線をつなぎ家に備え付ける物から、技術の発展に伴いコンピュータを搭載した持ち歩くコミュニケーションの道具です。イノベートしています。

この観点から、1年生の算数の授業の $7+4$ を考えてみましょう。 $7+4=11$ です。計算方法は、 $7+4=7+3+1=11 \ll 4$ (ヨン) を3 (サン) と1 (イチ) に分け10 (ジュウ) をつくる考え方 (方法) 》です。ここでの学びは、2つあります。『4を分けて、10をつくれればよい』という方法を学ぶ」と『数は自由に形を変えられる。(4 = 3 + 1 = 2 + 2 = ...) 目的に応じて数を自由に変え、問題を解決する。』という新しい価値の発見と解決の過程を体験する学び。』です。どちらも大切な能力です。子どもの特性を見て、伸ばす方向を決めることが大切になります。大切なのは、子どものよい所を伸ばすこと、無理にどちらかの方法を強制しても負担になるばかりです。バランスよく学ぶことだと思います。ノーベル物理学賞をとったファインマンという人が教え子へ言った言葉を思い出します。「考え方や方法を教えても身につくものではない。使ったり、悩んだりしながら自分の方法で学ばないと本当の分かったにはならない。」です。

私たち大人は、子どもたちに本当に分かったと思える経験を増やすことが大切です。子どもたちの学習の環境を整え、本当に分かったと感じるまで我慢強く待つことも教育の大切な一面だと感じます。

〈図書ボランティアの方々の活動に感謝〉

本校の自慢の一つに図書ボランティアの方々の活動があります。学期毎の各学年の「読み聞かせ」、手作り人形や絵まき物による「お話会」やワークショップの開催、図書の整理や本の修理もお手伝いを頂いています。優しい心をもった本好きの子どもたちの力強い応援団です。

